

たまねぎレポート【第434号】



令和5年12月27日

阪南青果株式会社

社内報

11月の天候は、気象庁の報道によると気温は、北日本でかなり高く、東・西日本で高くなった。北日本の日本海側の降水量は、かなり多かった一方、西日本の太平洋側の日照時間はかなりおおくなった。沖縄・奄美の降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。12月は比較的温暖な日が多かったが、寒暖の差が大きく、冬至前後に北日本の日本海側と北海道は大雪に見舞われた。

気象庁の1月～3月の3か月予報によると、平均気温は、北日本で高い確率50%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率60%。降水量は東日本の太平洋側と西日本の日本海側で平年並みまたは多い確率ともに40%。西日本の太平洋側と沖縄・奄美で多い確率50%。降雪量は、北・東日本の日本海側で少ない確率50%、西日本の日本海側で少ない確率60%。月別予報は次の通り。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の11月の野菜の販売量は、211,865トン前年比98%(前月比95%)平均単価はkg ¥232前年比107%(前月比83%)。市場別にはかなりのばらつきがあるものの、総じて販売量は前年比、前月比とも減。単価は前年比高、前月比安となっている。市場別の販売量と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg ¥192前年比115%。東京市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥244前年比106%。名古屋市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg ¥229前年比110%。大阪本場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥244前年比108%。福岡市場の販売量は前年比103%、平均単価はkg ¥182前年比105%となっている。

建値市場(拠点市場)の11月の玉葱の販売量は21,418トンで前年比82%(前月比80%)、平均単価はkg¥163前年比163%(前月比141%)となっている。特に、市況は10月後半~11月後半まで続伸し、高値悩みで消費が伴わず売れ行きが鈍化している。市場別の販売量と単価は、札幌市場の販売量は3,630トン前年比84%、平均単価はkg¥138前年比157%。東京市場の販売量は6,979トン前年比78%、平均単価はkg¥189前年比183%。名古屋市場の販売量は5,831トン前年比86%、平均単価はkg¥141前年比147%。大阪本場の販売量は3,290トン前年比85%、平均単価はkg¥172前年比158%。福岡市場の販売量は1,688トン前年比75%、平均単価はkg¥168前年比162%となっている。

東京都中央卸売市場の11月の野菜の入荷量は、113,872トン前年比99%。夏の猛暑の後遺症から回復基調となった秋冬野菜の入荷は、前月に続き前年をやや下回った。(旬別の前年比では上旬が5%減、中旬が1%増、下旬が前年並み、月間では1.4%減)。平均価格はkg¥244前年比106%(旬別では上旬がkg¥257前年比103%、中旬が¥235前年比103%、下旬が¥239前年比114%)、となっている。主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、ピーマンが前年比121%、ハクサイが119%、ダイコンとナマシイタケが104%などの8品目。前年比減の品目は、タマネギが前年比79%、ネギとトマトが86%、ニンジンが91%。など7品目。価格の前年比高の品目は、タマネギがkg¥189で前年比183%、ネギがkg436で163%、ニンジンがkg¥169で139%、キャベツがkg¥104で128%など9品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg¥50で前年比80%、レタスがkg177で91%、ホウレンソウがkg¥397で95%、ピーマンがkg¥438で96%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の11月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	113,872	98.6	99.3	244	106.3	79.2
た ま ね ぎ	6,979	78.2	78.6	189	183.0	148.8
キ ャ ベ ツ	13,489	94.8	89.5	104	128.3	88.1
は く さ い	15,840	119.1	113.7	50	79.7	46.3
だ い こ ん	11,325	104.3	128.9	71	95.0	52.6
に ん じ ん	6,765	91.3	99.3	169	139.0	77.9
ば れ い し ょ	6,191	96.0	92.0	123	111.5	96.1
レ タ ス	6,645	101.5	81.9	177	91.2	80.8
ね ぎ	4,440	86.4	105.2	436	162.7	79.7
ト マ ト	3,659	86.2	113.4	527	101.7	62.4
き ゆ う り	4,702	101.7	92.0	333	99.5	76.0
か ぼ ち ゃ	1,451	73.1	61.5	285	143.8	115.4
な が い も	441	72.0	92.5	538	164	100.2
れ ん こ ん	1038	96.4	90.4	310	108.2	89.6
に ん に く	173	87.6	128.2	1032	117.8	101.8

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の11月の玉葱の入荷販売量は6,979トン前年比78%(前月比79%)、主力は北海物で、北海物の販売量は6,506トン前年比75%、占有率は93%で前年比5ポイントダウン。中国物は390トン前年比267%、占有率は6%で前年比4ポイントアップ。兵庫物は37トン前年比156%、占有率1%。総平均単価はkg¥189前年比183%(前月比149%)。産地別

では、北海物はkg ¥192前年比189%。中國物はkg ¥122前年比90%。兵庫物はkg ¥201前年比91%で、前年比で北海物が大幅高の中國・兵庫物が大幅安となっている。

12月に入り、北海物の入荷は産地の通告通り減少傾向となったが、10月末～11月の相場の急騰で客離れが起き、需要は更に減退し売れ残りが増加傾向となった。北海物の販売量は前年比70%台に減少したが、産地が強気で指示価格が高く、卸会社は産地に追従し前年比90%高を厳守したため、客離れが進行した。市場関係者の多くは、年末年始の値上がりを予想していたが、需要期の荷動き鈍化と市況のジリ貧状態を眺め、期待外れを痛感している。年末を控えた昨今も、需要は振るわず、計画量以上に入荷するJAもある。産地の越年在庫は多くないと予想しているため、出荷進捗率は高いと推測している。年明けを期待している。

12月1日～19日の玉葱の販売量は4,703トン前年比74%(前月比98%)、平均単価はkg ¥195前年比181%(前月比105%)。産地別の販売量と平均単価は北海物が4,340トン前年比70%、平均単価はkg ¥199前年比190%。中國物は293トン前年比285%、平均単価はkg ¥115前年比83%。佐賀物は28トン前年比51%、平均単価はkg ¥309前年比99%。となっている。前年比で北海物が高く、中國、佐賀は安くなっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の11月の玉葱販売量は5,831トン前年比86%(前月比87%)で前年比、前月比とも大幅減となっている。主力は北海物で数量は5,700トン前年比85%、占有率は98%で前年比1ポイントダウン。兵庫物は.69トン前年比965%、占有率は1%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg ¥141前年比147%(前月比131%)。産地別の平均単価は、北海物は

kg¥142前年比150%。兵庫物はkg¥113前年比45%。となっている。

12月に入って、入荷は減少傾向となったが、年末需要は今ひとつで、在庫を抱えながらの販売が続いた。直送品は仕切値を維持しながらの販売を続けたことで、客離れ現象が生じ、売れ残りが増加し販売環境は厳しくなった。商系筋から安値の売り込みがあったが受け付けていない。年末需要も現状維持なら、市場在庫は更に増加する。産地在庫は少ないと聞いていたが、先高を期待し出荷を見送っていたと思われるオホーツク222の売り込み打診が多い。年末を迎えた昨今も、需要は伸び悩み在庫が増える状況にあり、価格維持の販売に耐えられなくなりそうな雲行きである。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の11月の玉葱の販売量は3,290トン前年比85%(前月比74%)、前年比、前月比とも大幅減となっている。産地別の販売量は、北海物が2,750トン前年比79%(前月比71%)占有率84%、前年比5ポイントダウン。兵庫物が512トン前年比128%(前月比94%)、占有率16%前年比6ポイントアップ。総平均単価はkg¥172前年比158%(前月比142%)で、前年比、前月比とも大幅高となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥168前年比174%。兵庫物はkg¥193前年比89%となっている。大阪市場も前年比で北海物高の兵庫物安となっている。

12月に入り、兵庫物のお荷は前年比20%程度増加し、価格は前年比6%高で完売が続いているが、主力の北海物は、前年比30%近く減少し、価格は前年比78%高で売れ残りが続いた。年末を控えた昨今では、北海物は売れ行き鈍く弱保合、兵庫物は引き合い強く強保合の市況展開となっている。北海物は出荷最盛期の破格な値上げで、客離れを招き需要不振に陥り、市場を始め流通関係業者に滞留在庫が多い。

12月1日～19日の玉葱の販売量は2,264トン前年比78%、前月比94%
平均単価はkg¥180前年比165%、前月比107%。産地別の販売量と平均
単価は北海物の販売量は1,874トン前年比73%、平均単価はkg¥173前
年比178%。兵庫物は372トン前年比119%、平均単価はkg¥216前年比1
06%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の11月の玉葱販売量は、2,545トン前年比75%(前
月比66%)で、前年比、前月比とも大幅減となっている。主力は北海物で、販売
量は1,343トン前年比63%、占有率80%前年比13ポイントダウン。中國物
は289トン前年比254%、占有率17%前年比12ポイントアップ。兵庫物は42
トン前年比227%、占有率2%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥12
1前年比162%(前月比139%)で前年比、前月比と大幅高となっている。産地
別の平均単価は、北海物はkg¥180前年比178%。中國物はkg¥97前年
比82%。兵庫物はkg¥210前年比80%となっている。

12月に入って、主力の北海物の入荷は減少傾向となったが、売れ行きが鈍
く、在庫を抱え込む状態になった。年末年始には入荷が途切れる期間が長くな
るので心配はしていない。転送業者の割安の売り込みが多く、応じていないが、
早生種のオホーツク222が多いことで、先高を期待した産地関係者のストック
物だと思われる。此の先、年末年始の需要に多少期待している。

12月1日～19日の玉葱の販売量は1,021トン前年比76%(前月比87%)
で前年比、前月比とも大幅減となっている。平均単価はkg¥186前年比16
9%(前月比114%)で前年比、前月比とも大幅高となっている。

12月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量143トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥3,800~3,500、 L大 ¥3,800~3,500、 L ¥3,800~2,900、
M ¥3,000~2,200。

【太田市場】 販売量175トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥4,200~4,000、 L大 ¥4,200~4,000、 L ¥4,000~3,800、
M ¥3,500~3,200。

佐 賀 5kgDB2L 1,400~ L ¥1,600~ M ¥1,500~ S ¥1,200~

【名古屋北部市場】 販売量112トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥4,000~3,800、 L大 ¥4,000~3,500、 L ¥4,000~3,300、
M ¥3,500~3,200。

【大阪本場】 販売量22トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥3,800~3,700、 L大 ¥3,800~3,500、 L ¥3,300~3,000、
M ¥3,000~2,800。

兵 庫 10kgDB2L ¥2,000~1,800、 L ¥2,700~2,300、 M ¥2,400~2,000。

【福岡市場】 販売量181トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥4,500~4,000、 L大 ¥4,500~4,000、 L ¥4,200~3,500、
M ¥3,500~3,300。

供給(産地)の動き

12月は、北海物の出回り減で市況は堅調に推移すると予想されたが、予想に反し、売れ行き不振で軟調市況に終わった。年明けは、北海物に加えて新物の先陣を切って静岡物が出回るほか、11月の高値市況を反映して、輸入物の出回りも増加傾向の可能性が高い。府県の冷蔵物は主力の淡路以外の在庫

数は入手していないが、淡路物の在庫は235, 512ケース前年比94%で出荷は前進化傾向である。新物の作柄については、何れの産地も生育は前進化しているものの静岡以外は今後の天候に支配され確定は2月後半になる。静岡に続く長崎、佐賀、愛知も生育は1週間程度前進化していると聞いているし、淡路の極早生の生育も順調である。いずれにしても、年明け1月前半は凡調な動きで、需給変動は月後半から2月になると予想している。私見では、年明けの出回り量は昨年並みかやや減と見ている。

北海道産地

貯蔵物の倉入れも終了し、近く年明けの産地在庫量が確定されると思うが、傍目からは前年比85%程度と予想している。産地関係者の多くは、11月の高値市況から更に先高を期待したが、お客不在の高値は期待外れで、12月は需要不振で値下がり市況となった。いずれにしても、kg¥150以上の高値市況は玉葱農家経済に潤いを与えた。産地関係者の多くは、更なる高値を期待しているが、需要を喚起することが先決である。

昔の近江の大店の商法は「売り手よし、買い手よし、世間よし」の三方良しを旨とした。玉葱ビジネスも参考にしたい。

府県産地

府県産の冷蔵物の在庫は兵庫以外は入手していない。冷蔵物は兵庫(淡路)で90%を占める。淡路物の在庫は20kg・235, 512ケースで前年比94%、他産地物は272, 847ケースで前年比91%。合計508, 359ケースで前年比92%となっている。新物の極早生は生育良好で、温暖な天候に恵まれ、生育は1週間前後進んでいる。大口生産者で機械化・省力化が進み、栽培面積は前年を維持している。

静岡産地は、天候に恵まれ生育順調で、年末から収穫が始まり、風乾・選果

調整の上、初市から主要市場に出回る。後続産地が出回るまでの重点出荷を計画している。1～2月の出荷は前年比2桁増となる見込み。作付は前年比3%増で、出荷計画数量は前年並みの計画である。

長崎・佐賀の極早生は、播種・育苗時に高温被害で多少被害を受けた苗床があるが、総じては順調で生育は1週間～1旬前進化しており、2月半ばからの出荷になると聞いている。

輸入の動き

11月の輸入の速報値は、通信機器の障害か？ 発表システムの変更か？ 不明だが入手出来ていない。然し、アメリカ物等の輸入が見受けられるので、輸入量は前年同期を上回っているとみている。日本マーケットの高値を反映して輸入コストは値上がりしている。11月～12月の輸入価格は

中 國 20kg・C&F・\$11.20～

アメリカ 50㍍・C&F・\$21.00～22.50

ニュージ20kg・C&F・¥2,500～2,400

となっている。

1月の市況見通し

年明け1月市況は、新物の静岡物に対する関心が深く、静岡物がプライスリーダーになる可能性が強い。私見の予測は、静岡物の10kg・L・¥3,500～3,000。愛知物10kg・L・¥3,000～2,500。北海物20kg・L大～L・¥4,000～3,500を予想している。主力の北海物については、在庫減で年明けの堅調相場が予想されていたが、年内の急速な値上げ販売で消費者離れが起き、現状では年内の高値を上回る販売は至難の環境にある。早急に需要喚起策を講じることが大事で、出荷抑制の価格高は後顧に憂いを残すと思う。

(笹野敏和記)